

AEON

株主のみなさまへ

2015

2月期 中間報告書

2014.3.1~2014.8.31



イオンモール和歌山 (2014年3月16日オープン)



イオンモール名古屋茶屋 (2014年6月27日オープン)



イオンモール天童 (2014年3月21日オープン)



イオンモールプノンペン (カンボジア) (2014年6月30日オープン)



イオンモール蘇州吳中 (2014年4月25日オープン)

ひと、まちも、きらきら。

イオンモール株式会社

証券コード：8905



代表取締役社長

岡崎 双一

Soichi Okazaki



株主・投資家のみなさまにおかれましては、ますます
ご清栄のこととお慶び申し上げます。

2015年2月期中間報告書をお届けするにあたり、
日頃のご支援・ご鞭撻に心よりお礼申し上げます。

■ 中間期の活動概況

当中間期における小売業界はお客様の節約志向が高まる一方で、高価格帯商品の需要が増加する等、消費行動の多様化に伴う業態を超えた競争の進展に加え、記録的な大雨等の天候不順の影響もあり厳しい事業環境となりました。ショッピングセンター業界全体の既存店ベース売上も前年同月を下回って推移いたしました。

このような状況のなか、当社は、国内で3月にイオンモール和歌山、イオンモール天童、6月にはイオンモール名古屋茶屋をオープンいたしました。各モールとも新たなコンセプトにチャレンジしており、大変好調に推移しております。

既存モールでは、5モールでリニューアルを行う一方、集客向上による売上拡大に向けた施策を実施した結果、

既存58モールの専門店売上は前年同期比100.0%となりました。

中国事業におきましては、中国江蘇省における1号店イオンモール蘇州吳中(蘇州市)を4月にオープンし、集客、売上は計画を上回って推移しています。また、イオンモール北京国際商城(北京市)、イオンモール天津TEDA(天津市)、イオンモール天津中北(天津市)の既存3モールにおきましても、客数、売上ともに前期を上回って推移し、また2014年1月にオープンしたイオンモール天津梅江(天津市)も堅調に推移しています。

アセアン事業におきましては、6月にカンボジア1号店となるイオンモールプノンペン(プノンペン市)をオープンしました。当モールは、カンボジアで最大規模のショッピングモールであり、オープン以後の集客、売上は大変好調に推移しています。

以上の結果、新規モールオープンによる収益増に加え、既存モールにおいても増収を確保した結果、営業収益は対前年同期比114.2%の976億9千2百万円と、中間期では過去最高を達成しました。事業規模拡大に加え、売上拡大のためのプロモーションの展開により、営業原価は682億8千2百万円(対前年同期比120.8%)となり、営業総利益は294億1千万円(同101.3%)となりました。

販売費及び一般管理費が将来の国内外の成長施策の推進により増加した結果、営業利益は184億2千万円(同90.4%)、経常利益は180億4千7百万円(同91.7%)、四半期純利益は、102億7千5百万円(同90.8%)となりました。

中間期の配当金につきましては、予定通り1株当たり11円とさせていただきます。

配当性向は年間20%以上としており、引き続き、株主の皆さまへの利益還元を拡充してまいります。

■ 下期の取組み

国内では、新たなコンセプトに基づく新規4モールを計画し、10月17日にイオンモール京都桂川、同月18日にイオンモール木更津をオープン、好調なスタートをきっています。イオンモール京都桂川は、「京町家」をコンセプトに、路地文化を彷彿とさせる空間で展開する食物販ゾーン『桂川小路』やレストランゾーン『洛西小路』の展開とともに、随所に円形窓や竹林風の外壁など和風の環境デザインを盛り込んでいます。イオンモール木更津の最大の特徴は、広大な敷地を活かし、本格的レーシングサーキット場や房総半島最大級のバーベキュー施設、フットサルスタジアムを「アクティブレジャーゾーン」で展開しています。

11月20日にはイオンモール多摩平の森、12月5日にはイオングループの旗艦店となるイオンモール岡山を

オープンいたします。

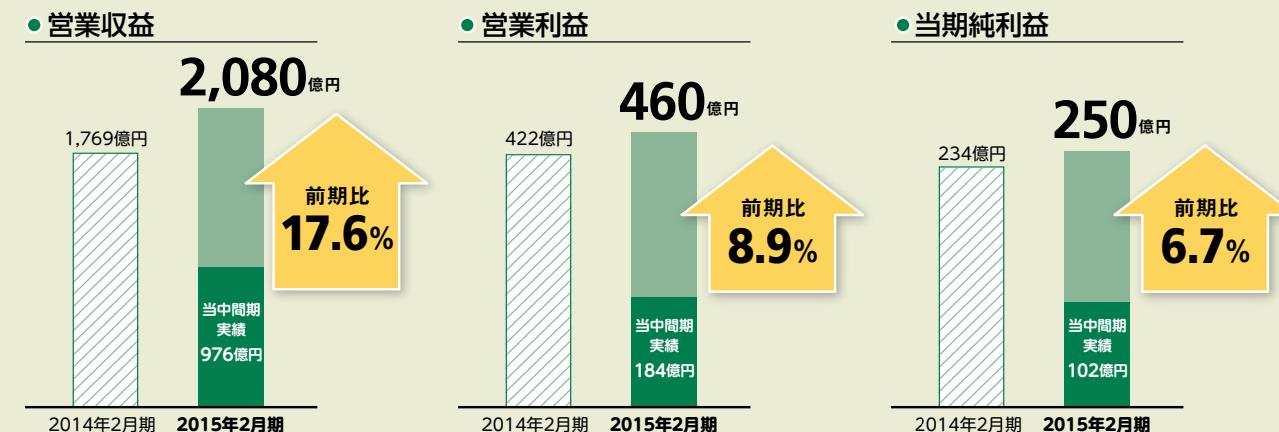
既存モールにおきましても、テナントの入れ替えだけでなく、新規モールでの取り組みを取り入れたリニューアルを推し進めるとともに、全国約140モールのスケールメリットを活かして、競争力強化を図り、年末商戦に向けた取り組みを本格化してまいります。また、さらなるモール・オペレーションの効率化を推し進め、一層のコスト削減にも取り組んでまいります。

海外事業では、中国、ベトナムにおいて新規モールをオープンし、引き続き、中国・アセアン地域における物件開発を促進してまいります。

以上の取り組みを通して、通期では増収増益を確保し、従来にも増して持続的成長と高い収益性を兼ね備えた強靱な企業体質の構築に取り組んで参ります。

株主のみなさまにおかれましては、何卒、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年2月期連結業績見通し(2014年3月1日~2015年2月28日)



様々な世代のライフシーンへ+αを提供する
和歌山県最大級の規模を誇るショッピングモール



当社初の試み「オートモール」。車で直接アクセス可能な屋上階に国内外のカーディーラー 4ブランドのショールームを設置しました。



国際的なデザイン事務所とのコラボレーションにより生まれた「お客さまが心地よく過ごせる空間演出」にこだわった新鮮なモールデザイン。

2014年3月16日
グランドオープン

イオンモール和歌山 和歌山県和歌山市

当モールは、和歌山市北部で開発が進められている「学園城郭都市ふじと台」の商業ゾーンに立地し、近畿地区初出店19店、和歌山県初出店113店を含む210店の専門店が構成されています。また、15.5万㎡の広大かつ高低差のある敷地を活かして、レストランとアウトドア等で構成する外部棟ゾーン「アウターモール」や、モール東側から直接車でアクセスが可能な屋上には「オートモール」を設置しました。

- 敷地面積：155,000㎡
- 総賃貸面積：69,000㎡
- 基本商圏：車30分圏、約16万世帯、約42万人
- 専門店数：210店舗
- 駐車台数：3,500台

新たなまちのランドマークとして、
一歩先行くライフスタイルをご提案。

イオンモール名古屋茶屋 愛知県名古屋

当モールは、名古屋市南西部の交流拠点として開発が進められている名古屋市茶屋新田土地区画整理事業の中核事業と位置づけられており、地域の新たなランドマークとなるモールです。東海地区初出店28店、愛知県初出店34店を含む200店の専門店が構成され、話題性の高い高感度ファッションブランドを多数導入しており、好調に推移しております。

- 敷地面積：186,000㎡
- 総賃貸面積：75,000㎡
- 基本商圏：車30分圏、約40万世帯、約96万人
- 専門店数：200店舗
- 駐車台数：4,100台

2014年6月27日
グランドオープン



表情豊かなレストランに囲まれた
テラス感覚のレストランガーデン



国際的なデザイン事務所とのコラボレーションにより生まれた「お客さまが心地よく過ごせる空間演出」にこだわった新鮮なモールデザイン。

豊富な観光資源をモールの強みとして活用、
地域の拠点として寛げる空間をご提供。

2014年3月21日
グランドオープン

イオンモール天童 山形県天童市

当モールは、豊富な観光資源を持つ天童市の特性を活かし、伝統的な地域色とシンプルモダンを融合したモールデザインになっています。山形県初出店64店を含む130店の専門店が構成、モール棟と連動する「一体感のある美しい街づくり」をめざす外部棟ゾーンには、1期計画として、天童市の名産、名品を提案する新たなコンセプトの飲食棟を配置しました。

- 敷地面積：140,000㎡
- 総賃貸面積：47,000㎡
- 基本商圏：車30分圏、11万世帯、約34万人
- 専門店数：130店舗
- 駐車台数：3,000台



地元の世界的に有名な天童木工とのコラボレーションで制作されたモニュメントや家具を全館に配置。



馬の文字が反転した「左馬」は福を招く商売繁盛の守り駒。モール東側には羽生善治三冠、西側は弊社社長岡崎の直筆の将棋駒をレイアウトしています。



下期オープンの新規モール

イオンモール京都桂川

京都府京都市・向日市 2014年10月17日グランドオープン

イオンモール木更津

千葉県木更津市 2014年10月18日グランドオープン

今後オープン予定のモール

イオンモール多摩平の森

東京都日野市 2014年11月20日グランドオープン

イオンモール岡山

岡山県岡山市 2014年12月5日グランドオープン

モータリゼーションの進展で市場拡大が期待できる中国・アセアン地域においてもモール出店を積極展開。
アジアNo.1の商業ディベロッパーとしての地位を確立していきます。

中国事業

既存モールは売上、客数とも前期比20%以上で推移。
新たなエリアとして江蘇省、湖北省にもオープン。

新規オープン

イオンモール蘇州吳中 (江蘇省)
蘇州市吳中区 2014年4月25日グランドオープン



モールが位置する
イオングリーンアイランド
(永旺緑島)

蘇州の文化を継承したモダン
アートの斬新なモールデザイン



当モールは、蘇州市市街地から南10kmに位置する江蘇省蘇州市吳中経済開発区内に位置しており、経済開発区の商業センターの中核施設として出店したものです。蘇州市吳中経済開発区政府の協力により、周辺インフラ整備において、公園、道路の名称にはイオンが採用され、当モールでは、エンターテインメントをテーマにフードコートと大型キッズアミューズメントを複合させた「キッズフードエンターテインメントゾーン」や、ボーリングやビリヤード、シネマ等を導入し、家族が1日中楽しめる「ファミリーエンターテインメントゾーン」を展開。またグローバルブランドや日本の大手アパレル企業のセレクトショップ等を誘致するとともに、インターナショナルスポーツブランドのアウトレットを集積したゾーンを展開しています。

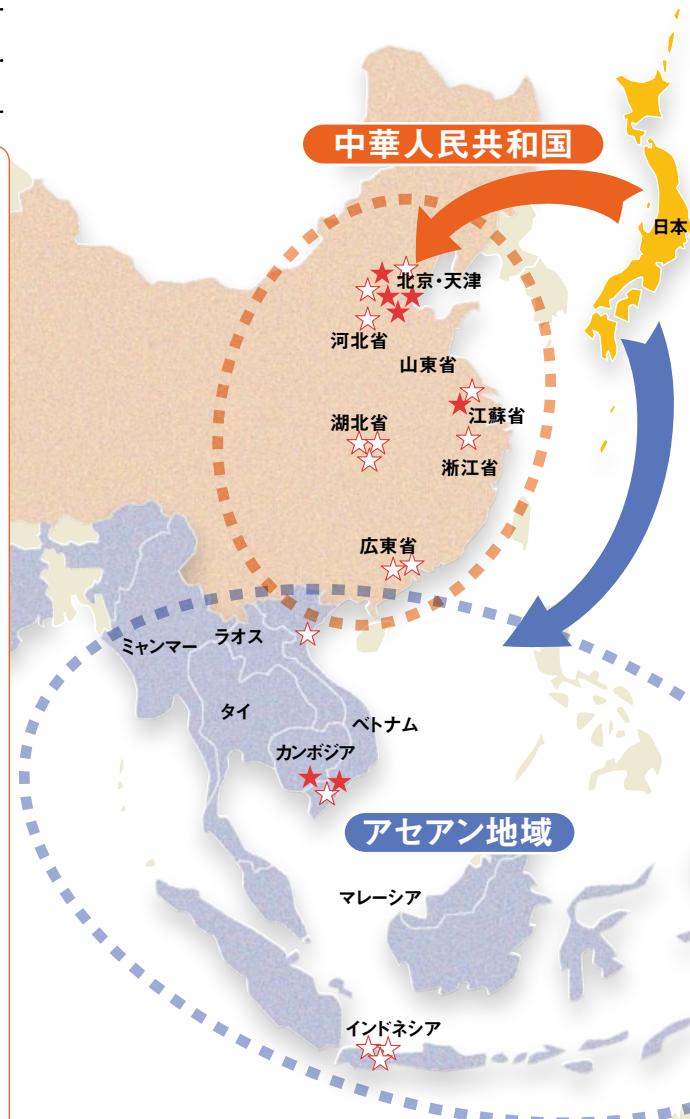
- 敷地面積：114,000㎡
- 総賃貸面積：75,000㎡
- 基本商圏：車20分圏、約300万人
- 専門店数：190店舗
- 駐車台数：3,100台

既存4モール

- イオンモール北京国際商城 (北京市)
- イオンモール天津TEDA (天津市)
- イオンモール天津中北 (天津市)
- イオンモール天津梅江 (天津市)

今後オープン予定のモール

- イオンモール武漢金銀潭 (湖北省)
2014年12月オープン



★既存・新規オープン店舗
☆オープン予定地

アセアン事業

ベトナムに続き、カンボジアにも初出店。
今後はインドネシアにもオープン予定。

新規オープン (カンボジア)

イオンモールプノンペン

2014年6月30日グランドオープン



センターコート

フードコート内の
日本料理を提供する
Japan Dining



- 敷地面積：68,000㎡
- 総賃貸面積：66,000㎡
- 駐車台数：約1,400台
- 基本商圏：車20分圏、約18万世帯、約68万人
- 専門店数：190店舗
- 駐輪台数：1,600台

当モールはカンボジアの首都であるプノンペンの中心に立地しており、周辺には高級住宅街やホテルが立ち並び、中高所得者層の世帯が大半を占めるなど、今後さらなる発展が見込めるエリアに位置しております。カンボジア国内初出店107店を含む190の専門店が構成されており、プノンペン市内の高感度ローカルブランド43店をはじめ日本からも49店が出店しています。アセアン最大級のシネマチェーン「Majorグループ」による国内最大となるシネマコンプレックスやボーリング場に加え、本格的なアイススケートリンクを導入するなど、エンターテインメント機能の充実を図りました。また、モール内に地元で人気のTV局が出店し、当モールから最新情報をカンボジア全土へ発信しています。飲食ゾーンは、「Japan Dining」「World Dining」の2つのコンセプトで大型フードコートを展開しています。この他、ユニバーサルデザインや太陽光発電、LED照明を導入する等、人と環境に配慮した施設づくりにも取り組んでいます。当モールは、カンボジアで最大規模のショッピングモールであり、オープン以降の集客、売上は大変好調に推移しています。

既存1モール (ベトナム)

イオンモールタンフーセラドン

下期オープンの新規モール

- イオンモールビンズオンキャナリー (ベトナム) 2014年11月1日オープン

中間期連結決算サマリー

経営成績

営業収益は976億9千2百万円(対前年同期比114.2%)となりました。営業原価は事業規模拡大に加え、売上拡大のためのプロモーション展開のコスト増加により682億8千2百万円(同120.8%)となり、その結果、営業総利益は294億1千万円(同101.3%)となりました。

販売費及び一般管理費は、国内出店拡大に向けた体制強化や中国・アセアン地域での事業展開加速に向けた海外事業拠点の体制拡充等によるコスト増加により109億9千万円(同127.2%)となり、営業利益は184億2千万円(同90.4%)となりました。

営業外収益が9億1千4百万円(同122.4%)、営業外費用が12億8千7百万円(同88.1%)となった結果、経常利益は180億4千7百万円(同91.7%)となりました。四半期純利益は、102億7千5百万円(同90.8%)となりました。

財政状態(資産、負債および純資産の状況)

資産の部

総資産は、前連結会計年度末と比較して630億4千万円増加し、8,222億8千5百万円となりました。これは新規モールのオープン、将来の開発用地の先行取得等により、有形固定資産を854億4千5百万円取得した一方で、固定資産が減価償却により139億9千9百万円、建設協力金の流動化による売却等により差入保証金が111億4百万円減少したこと等によるものです。

負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して579億3千4百万円増加し、5,186億5千3百万円となりました。これは、社債の純増額が200億円、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む。)が42億6千5百万円、専門店預り金が355億8千3百万円増加したこと等によるものです。

純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して51億6百万円増加し、3,036億3千2百万円となりました。これは、四半期純利益102億7千5百万円の計上により、利益剰余金が増加したこと等によるものです。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)	前中間期	当中間期
	自2013年3月1日 至2013年8月31日	自2014年3月1日 至2014年8月31日
営業収益	85,540	97,692
営業原価	56,511	68,282
営業総利益	29,028	29,410
販売費及び一般管理費	8,641	10,990
営業利益	20,387	18,420
営業外収益	746	914
営業外費用	1,460	1,287
経常利益	19,673	18,047
特別利益	0	199
特別損失	331	267
税金等調整前四半期純利益	19,341	17,979
法人税、住民税及び事業税	8,218	7,726
法人税等調整額	△211	△21
法人税等合計	8,006	7,704
少数株主損益調整前四半期純利益	11,335	10,275
少数株主利益又は少数株主損失(△)	15	△0
四半期純利益	11,319	10,275

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)	前期	当中間期
	2014年2月28日 現在	2014年8月31日 現在
資産の部		
流動資産	90,033	93,882
固定資産	669,211	728,403
有形固定資産	557,559	628,489
無形固定資産	3,570	3,614
投資その他の資産	108,081	96,299
資産合計	759,245	822,285
負債の部		
流動負債	184,370	227,786
固定負債	276,348	290,866
負債合計	460,718	518,653
純資産の部		
株主資本	281,330	289,114
資本金	42,195	42,204
資本剰余金	42,504	42,513
利益剰余金	196,722	204,491
自己株式	△92	△95
その他の包括利益累計額	13,793	9,825
その他有価証券評価差額金	429	504
為替換算調整勘定	13,364	9,321
新株予約権	164	175
少数株主持分	3,237	4,516
純資産合計	298,526	303,632
負債・純資産合計	759,245	822,285

連結キャッシュ・フロー(要約)

(単位:百万円)	前中間期	当中間期
	自2013年3月1日 至2013年8月31日	自2014年3月1日 至2014年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,922	55,114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60,431	△75,757
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,793	22,507
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,035	△1,561
現金及び現金同等物の増減額	10,319	302
現金及び現金同等物の期首残高	39,292	59,096
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,612	59,398

財政状態(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果増加した資金は、前年同期間と比較して161億9千2百万円増加し、551億1千4百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果減少した資金は、前年同期間と比較して153億2千6百万円増加し757億5千7百万円となりました。主な要因は、新規モールのオープンに伴う設備代金や開発用地の先行取得代金の支払等による支出です。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果増加した資金は、前年同期間と比較して62億8千6百万円減少し、225億7百万円となりました。主な要因は、社債の発行および長期借入れによる収入です。

結果、現金及び現金同等物の当中間期末残高は、前連結会計年度末に比べ3億2百万円増加の593億9千8百万円となりました。

株主優待のお知らせ

対象株主さま

毎年2月末日現在の株主名簿に記載された株主さまについて、実施いたします。

実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまです。

〈優待制度〉

- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
- 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
- 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

詳細については、2015年6月下旬に送付予定のご優待商品選択に関するご案内をご覧ください。

●ご優待商品

3つのコースからひとつを選択していただけます。

- ①「イオンギフトカード」
- ②「カタログギフト」
- ③「カーボンオフセットサービス」*

※このサービスを選択されますと、相当額分の二酸化炭素排出権を一般社団法人「日本カーボンオフセット」(http://www.co-j.jp)を通じて、国の償却口座に無償で移転されます。

〈ご報告〉2014年2月期の実績では、25名の方よりご選択いただき、26トン分の二酸化炭素排出権を取得いたしました。



カタログ商品イメージ



株式の状況 (2014年8月31日現在)

発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式の総数 227,887,117株
株主数 17,960名

所有者別株式分布状況 (2014年8月31日現在)



大株主(上位10名) (2014年8月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
イオン株式会社	111,162	48.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,911	3.03
ザバンクオブニューヨークメロン140030	6,041	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,090	1.79
サジャツブ	3,570	1.56
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	3,005	1.31
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505223	2,423	1.06
メロンバンクエヌイーアズエージェントフォーイツクライアントメロンオムニバスユーエスペンション	2,276	0.99
ジェーピーモルガンチェースバンク385174	2,275	0.99
東京海上日動火災保険株式会社	1,851	0.81

(注) 1. 持株数は、千株未満は切り捨てています。 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

会社概要 (2014年8月31日現在)

社名 イオンモール株式会社
英文社名 AEON MALL CO., LTD.
設立 1911(明治44)年11月
資本金 422億4百万円
本社所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数 1,920名
モール数 142店(海外含む)

取締役・監査役 (2014年8月31日現在)

取締役会長	村上 教行	取締役	玉井 貢
代表取締役社長	岡崎 双一	取締役	村井 正人
専務取締役	岩本 馨	取締役	三嶋 章男
専務取締役	千葉 清一	取締役	平 真美***
専務取締役	岩本 博	常勤監査役	濱崎 洋行**
常務取締役	梅田 義晴	監査役	平松 陽徳**
常務取締役	吉田 昭夫	監査役	町田 祥弘**
取締役相談役	岡田 元也	監査役	市毛 由美子***

* 社外取締役 ** 社外監査役 *** 東京証券取引所の定めに基づく独立役員

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。
http://www.aeonmall.comから、「株主・投資家情報」をクリックしてください。



イオンモールはホームページでさまざまな情報を発信しています。



株主さま、投資家の皆さまへの情報開示に努めています。

株主メモ

決算期 2月末日
基準日 定時株主総会基準日 2月末日
期末配当基準日 2月末日
第2四半期末配当基準日 8月末日

定時株主総会 5月末日までに開催
単元株式数 100株
株主名簿 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
管理人 みずほ信託銀行株式会社

お問い合わせ先 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
イオンモール株式会社
管理本部 総務部
〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
電話 043-212-6463

公告方法 ホームページ http://www.aeonmall.com
電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

■未払配当金のお支払い、支払明細の発行

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■住所変更、単元未満株式の買取請求、口座振替、配当金受取方法の指定等

【証券会社に口座をお持ちの株主さま】

お取引の証券会社にお問い合わせください。

【特別口座の株主さま(証券会社に口座をお持ちでない株主さま)】

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

★イオンモール岡山 岡山県岡山市

イオングループの旗艦店 コンセプトは「ハレマチ」 わたし(岡山)の未来をつくるまち

2014年12月5日
グランドオープン

当モールは中四国エリアの交通の要衝として、ひと・文化・情報のクロスポイントである、岡山県の玄関口、岡山駅前に位置し、岡山県の地元企業65店舗、岡山県初出店238店舗を含む、356の専門店が集結したイオングループの旗艦店となる都市型モールです。

モールコンセプトは「ハレマチ わたし(岡山)のみらいをつくるまち」。岡山の文化を創造し発信する「おかやま未来ホール」、岡山のものづくりを体験体感できる「ハレマチ特区365」も導入。さらに地元TV放送局「OHK岡山放送」や当モール独自ネットTV放送局のスタジオ、300インチビジョンをはじめとした約50台のデジタルサイネージ「haremachi Vision」を完備し、施設や地域の情報を多様なメディアミックスで発信します。

- 敷地面積：約46,000㎡
- 専門店数：356店舗
- 総賃貸面積：約92,000㎡
- 駐車台数：約2,500台
- 基本商圏：岡山県全域 約192万人、約80万世帯



7F
|
5F

【haremachi Garden】



第2のグランドフロアとして5Fから7Fのオープントップ部分にステップガーデンを配した屋外オアシス空間。

【おかやま未来ホール】



シアター型600席、ステージと可動式の客席を設置した本格的な多目的ホール。音楽イベント・コンベンションなど様々な用途に対応可能。

【ハレマチ特区365】



岡山のものづくりを体験・体感できるゾーン。約70の地元ブランドが並び、作り手同士や利用者との交流を通じ、新たな地元文化の創造と発信を行う。

4F
|
1F

【haremachi Diner 6&7】



39店舗で展開される中四国最大級のレストラン街。

【OHKまちなかスタジオ<ミルン>】



地元TV局「OHK岡山放送」のメインスタジオを併設。ここからニュースや情報番組を毎日生放送するほか、来場者に生放送を常時公開。

B2F

【未来スクエア】



1Fから4Fまで吹き抜けの大空間。イベント時には約2,000人が集うことが可能。4層フロアには1周440mのサーキットモールを配置。

【haremachi Gate】



JR岡山駅から岡山駅南地下道で直結したウェルカムゲート。